

あいち病害虫情報 最新情報

平成25年9月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ミナミアオカメムシ

ダイズにおけるミナミアオカメムシの発生量は、おおむね昨年並です。しかし、ほ場間で発生量の差が大きいので、ほ場を見回り発生状況の把握に努めてください。発生ほ場では開花30日後を目安に防除しましょう。

落葉果樹の病害虫

モモせん孔細菌病が発生しているほ場では、台風により感染の拡大が予測されますので、早急に防除しましょう。ナシ黒星病は、台風以前から県内各地域で発生が多い状況です。発生しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋期防除を徹底しましょう。

チャバネアオカメムシは、フェロモントラップにおける誘殺状況から、スギやヒノキからの本格的な離脱は、まだ始まっていないと推測します。しかし、予察灯における誘殺数から、山林での生息数は増加していると考えられ、台風18号の通過によりスギ・ヒノキ林の近くの果樹園では飛来が増加した可能性があります。園内をよく観察し、飛来を確認したら防除しましょう。防除対策については、9月3日発表の「果樹カメムシ情報第3号」を参考にしてください。

フェロモントラップにおけるナシヒメシクイの誘殺数は、おおむね平年並ですが、豊田市のモモでは多い状況です。モモ園では、夏期の高温により、コンフューザーの効果が平年より早く切れている可能性があり、今後、ナシ園への成虫の飛来が心配されます。発生が多いナシほ場では、収穫前日数に注意し、防除しましょう。

ダイズ、野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、西三河地域では少ない状況ですが、尾張地域では平年よりやや多くなってきました。防除対策などについては、9月3日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

ハイマダラノメイガによる被害は、県内キャベツほ場では少ない状況ですが、農業総合試験場の無防除ダイコンほ場では平年並に発生しています。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、防除に努めましょう。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数は、引き続き多い状況です。キクでは、生長点付近や花蕾に食害が見られたら、早急に防除をしましょう。キャベツでは、結球部に食入すると防除が難しくなるので、結球前の防除を徹底しましょう。防除対策については、8月16日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第3号」を参考にしてください。

アブラナ科野菜の細菌性病害に注意！

軟腐病、黒斑細菌病、黒腐病などの細菌性病害は、台風18号による強風を伴った風雨により発生増加が懸念されます。また、1か月予報では、気温はやや高く、降水量もやや多いと予想され、これらの病害の発生が助長されると考えられますので、登録のある農薬で防除を徹底しましょう。また、排水の悪いほ場では発生が助長されるので、排水対策を十分に行ってください。

イチゴ炭疽病、萎黄病

炭疽病は、台風18号の影響により発生増加が懸念されます。また、炭疽病、萎黄病とも気温が高いと発生が助長されるので、今後の発生に注意し、発病が疑われる苗は定植しないようにするとともに、本ほ場で発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出して適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病に注意！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミの粘着トラップによる誘殺数は、田原市、弥富市ともおおむね平年並の状況です。タバココナジラミの早期防除、栽培施設内への侵入防止に努めるとともに、発病株は見つけ次第抜き取りましょう。防除対策については、9月3日発表の「トマト黄化葉巻病情報第1号」を参考にしてください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820